

適正利用・エコツーリズムワーキンググループの経過報告・今後の予定

報告日：2021年3月8日

【適正利用・エコツーリズム検討会議の仕組み及びWGの運営】

本WGは、地域連絡会議適正利用・エコツーリズム部会と合同で2010年から「適正利用エコツーリズム検討会議」として開催している。検討会議は、「保全と利用に関する調整を管理主体関係者と専門家、地域関係者が同じ立場で検討する場」である。そして知床世界自然遺産地域管理計画および知床エコツーリズム戦略に基づき、世界遺産地域の資源の適正な利用及びエコツーリズムを含む観光の持続可能化を推進している。その基本原則は次のとおり。

- 遺産地域の自然環境の保全とその価値の向上
- 世界の観光客への知床らしい良質な自然体験の提供
- 持続可能な地域社会と経済の構築

検討会議では、戦略に基づく提案制度による提案の検討と承認後の運用状況の確認を毎回の議題にしている。なお、2018年度から適正利用・エコツーリズムWGを単独開催している。

【経過報告】

<検討会議>

1. 知床エコツーリズム戦略の運用状況

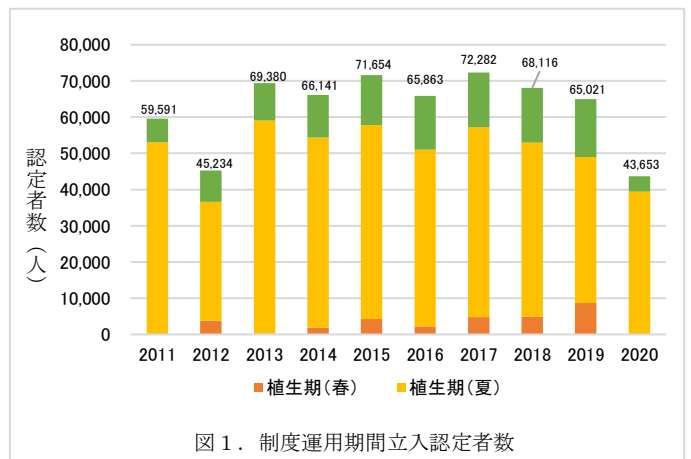
提案が承認され、検討がなされた2件の状況は以下のとおりである。また、過去の提案も含めた検討状況は別紙1のとおりである。

案件名	提案者	運用状況と課題
赤岩地区昆布ツアー	羅臼町観光協会	半島先端部での文化資源を活用した教育目的のツアーとして2016年の検討会議で5年間の試行を合意したが、2021年第1回検討会議において、2020年度までの総括報告と今後のツアー実施について議論する予定。利用を継続するときには、今後の利用を保証する管理の提案が必要である。
厳冬期の知床五湖エコツアー事業	斜里町観光協会	人数制限、ガイド同伴によって静寂性を保って冬期の知床五湖をまわるツアーであり、コロナ禍で外国人がゼロとなったが、今年度も実施中。ガイドツアー実施の利便性向上のために、ツアーの午後の出発時間を30分繰り下げ、13:30-17:00までとすることの説明があり、環境やリスクに影響がないとの判断で承認した。2020年度は例年より15日間短縮する変更を承認した。

2. 個別地域における取り組み状況と課題

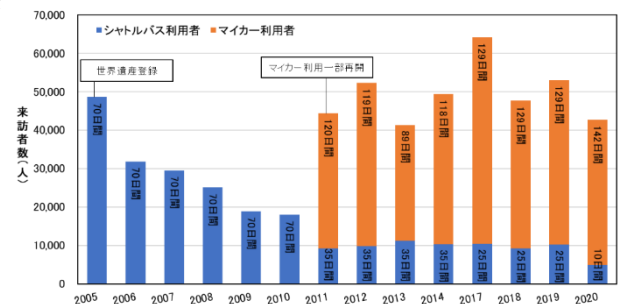
○知床五湖における利用調整地区制度の運用

今年度から、知床五湖地上遊歩道の利用者全てにレクチャーを実施する制度に移行(自由利用期を廃止、植生保護期間を延長)し運用した。コロナ渦の影響で、2020年度の地上遊歩道立入者数は制度開始以来最も少ない43,653人(前年比67%)であった。知床五湖地上遊歩道の再整備工事は予定通り進んでおり、次年度で完成する予定。



○カムイワッカ地区におけるマイカー規制

2020年度は、マイカー規制を10日間(従来方式7日間、新方式3日間)実施した。カムイワッカ地区の来訪者数は、マイカー利用者34,785人(前年比81%)、シャトルバス乗車人数4,926人(前年比48%)となり、合計来訪者数は39,711人(前年比75%)となった。



2021年度以降のマイカー規制のあり方について

は、従来方式と新方式(2020年度に試行したシャトルバス運行)のマイカー規制を併用し、今後3年程度継続して最適な運用方法を検討していく予定。

また、カムイワッカ湯の滝の一の滝以奥の再利用について斜里町観光協会及び斜里町から提案があり、2021-2023年度の3年間を試行として、安全対策を施したツアーを認めることとした。ただし、正式な承認は、3月のカムイワッカ部会で確認される合意内容を確認してからとする。その際には利用の範囲、時期、管理の内容などわかりやすい説明を示すことが条件。

○ウトロ海域におけるケイマフリをシンボルとした協働

知床ウトロ海域環境保全協議会において、海鳥WEEK等の各種イベントを縮小して実施した。知床ウトロ海のハンドブック等の売上収入を海鳥及びその生息環境の保全活動と普及啓発活動に充てており、現在補助金を活用しながら改訂作業を進めている。

3. その他

○知床国立公園の利用のあり方検討について

2017-2018 年度に開催された「知床国立公園利用のあり方に関する懇談会」において地域からの意見として新たな利用と保全のイメージ案が示されている。検討会議としては、世界自然遺産地域内での新たな利用については、個別案件はエコツーリズム戦略に沿った提案や報告(簡易承認)として積み上げていく原則を守る。その実績を生かして(反映して)全体の方針を変更した方が現実的だという場合には、遺産管理計画やエコツーリズム戦略を含む全体方針や計画の修正を要望する。その修正は本来、適正利用・エコツーリズム WG や遺産管理に関わる中立的関係者(個々に事業者など、利用の当事者(利益享受者)となる主体ではなく)が提案して行くのが望ましい。ただし、その全体方針や全体計画は、エコツーリズム戦略に沿って検討会議の場で合意を得ていく。以上の内容を先日の検討会議で確認済み。この取扱に関して科学委員会としても問題がないか、ご確認をお願いしたい。

<ワーキンググループ>

1. 長期モニタリング計画の評価について

評価項目Ⅶ「レクリエーション利用等の人為的活動と自然環境保全が両立されていること」についてエコツーリズムWGの案を固めた。なお、モニタリング項目 No. 6「ケイマフリ・ウミネコ・オオセグロカモメ・ウミウの生息数、営巣地分布と営巣数調査」については、評価基準に人為的活動の影響に対する観点が含まれていないことから、今回評価では参考情報に位置づけ、次期計画に向けて検討することで合意した。

2. 知床国立公園の利用状況調査について

長期モニタリング項目 No. 21「利用者数の変化」及び知床白書等に掲載している知床国立公園の利用状況調査について、長期モニタリング計画の取りまとめを契機として、調査手法・項目等の見直しを行った。

【主な検討事項や今後の予定】

○検討会議

- ・知床エコツーリズム戦略の運用をはじめとする知床世界自然遺産地域の適正な利用及びエコツーリズムの推進を図るため、引き続き年2回実施予定。
- ・知床国立公園の利用のあり方の議論に沿って、各種計画の見直しを検討していく。

- ・ヒグマ対策連絡会議やアドベンチャーツーリズム等についても必要に応じて情報提供を継続し、知床のエコツーリズムの動向を共有する。

〇WG

- ・長期モニタリング等について科学的助言を得るため、引き続き年2回実施予定。
- ・「No. 19 適正利用に向けた管理と取組」「No. 20 適正な利用・エコツーリズムの推進」及び評価項目「Ⅶレクリエーション利用等の人為的活動と自然環境保全が両立されていること」について、適切に実施・評価されるよう科学的助言を行う。